

環長崎港夜間景観向上基本計画

平成29年5月

長崎市



目次

1. 本計画について

- 1-1. これまでの取り組み・・・・・・・・ 2
- 1-2. 課題・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 1-3. 本計画の目的・・・・・・・・・・ 3
- 1-4. 本計画の位置づけ・・・・・・・・ 3
- 1-5. 本計画の対象区域・・・・・・・・ 4

2. 長崎の夜間景観が目指すもの

- 2-1. これからの都市照明とは・・・・ 6
- 2-2. 3つのコンセプト・・・・・・・・ 9

3. 長崎における都市照明のための7つの視点

- 3-1. 快適な陰影・・・・・・・・・・・・ 15
- 3-2. 適正な色温度対比・・・・・・・・ 17
- 3-3. グレアフリー・・・・・・・・・・ 18
- 3-4. 鉛直面の明るさ・・・・・・・・ 20
- 3-5. 演色性への配慮・・・・・・・・ 22
- 3-6. 高効率照明器具・・・・・・・・ 24
- 3-7. オペレーション・・・・・・・・ 26

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

- 4-1. 全体の考え方・・・・・・・・・・ 28
- 4-2. 遠景の夜景みがき・・・・・・・・ 29
 - ・視点場の設定と現状分析・・ 29
 - ・取組方針・・・・・・・・・・・・ 31
- 4-3. 中・近景の夜間景観づくり・・ 34
 - ・取組方針・・・・・・・・・・・・ 35
 - ・平和公園エリア・・・・・・・・ 36
 - ・出島エリア・・・・・・・・・・ 46
 - ・西坂・諏訪の森エリア・・ 52
 - ・中島川・寺町エリア・・・・ 61
 - ・丸山エリア・・・・・・・・・・ 69
 - ・館内・新地エリア・・・・ 73
 - ・東山手・南山手エリア・・ 80
 - ・春雨通り周辺エリア・・・・ 90
 - ・市役所通りエリア・・・・ 91
 - ・長崎駅周辺エリア・・・・ 94

5. 光の歳時記

- 5-1. 光のイベント・・・・・・・・・・ 102

6. 今後の取り組み

- 6-1. 節目となる時期に向けて・・・・ 104

1. 本計画について

1. 本計画について
1-1. これまでの取り組み

本市においては、ライトアップが都市景観の演出として定着する以前より、港を中心としたすり鉢状の地形と市街地の高密度化によって、「1000万ドルの夜景」とも評される立体的で美しい夜景が形成されてきました。こうした夜景の魅力をさらに高めるため、平成5年度、照明デザイナー・石井幹子氏の監修により「ライトスケープ基本計画」を策定し、主要な観光施設のライトアップに着手し、現在までに大浦天主堂や眼鏡橋等の約30施設で実施しています。

平成15年度から17年度にかけては、「ナトリウム灯活用夜景魅力アップ整備事業」により、都心地区、西坂～平和公園地区、稲佐山周辺地区において、重要な道路として選定された路線の街路灯約350箇所を水銀灯等からナトリウム灯へ改修しました。

平成21年度からは視点場の再整備に着手し、稲佐山においては展望台駐車場整備、世界的工業デザイナー・奥山清行氏のデザインによるロープウェイゴンドラのリニューアル、光のトンネル整備、展望台の改修、鍋冠山においては平成27年度から、展望台の改修に着手するなどの取り組みを進めています。

ソフト施策としては、平成6年から、それまで中華街で行われていた旧正月（春節）を祝う行事「長崎ランタンフェスティバル」の規模を拡大しました。中心市街地に中国ランタン約1万5000個を設置し、15日間に渡り各種イベントを行っています。また、平成21年度には、夜景評論家・丸々もとお氏の監修による「長崎ノ夜景」ホームページを開設し、情報発信の強化を図るとともに、民間と連携し夜景ナビゲーターの育成や夜景鑑賞バスの運行などに取り組んできました。

こうした取り組みが評価され、平成24年10月、モナコ・香港と共に「世界新三大夜景」に、平成27年10月、札幌市・神戸市と共に「日本新三大夜景」に認定されました。

平成27年の観光客数は669万人、観光消費額は1,368億円でいずれも過去最高を記録し、ロープウェイの乗客数は平成17年の約6.7万人から、平成26年度には約19万人に大幅に増加するなど、目に見える形で効果が出ています。

表 観光客数、観光消費額の推移



表 夜景整備の取り組み

年度	取り組み
H5	ライトスケープ基本計画策定
H7～H8	主要な観光施設のライトアップ整備（写真①）
H14	ライトスケープ基本計画（ナトリウム灯）策定
H15～H17	ナトリウム灯活用夜景魅力アップ整備（写真②）
H21	稲佐山山頂駐車場整備
H22	稲佐山山頂展望台リニューアル（写真③）
H23	世界的工業デザイナーである奥山清行氏によるロープウェイゴンドラのリニューアル（写真④）
H24	稲佐山山頂に「光のトンネル」整備 「世界新三大夜景」認定
H25	「長崎の夜景の在り方に関する検討会」開始
H26	「ロマンチックイルミネーション（グラバー園）」開始 「長崎の夜景の在り方に関する検討会」報告書の完成
H27	「日本新三大夜景」認定 「日本百名月」認定 ロープウェイ淵神社駅待合所リニューアル 鍋冠山展望台リニューアル（写真⑤）
H28	稲佐山山頂電波塔ライトアップ開始（写真⑥） 「全国夜景都市協議会」開催

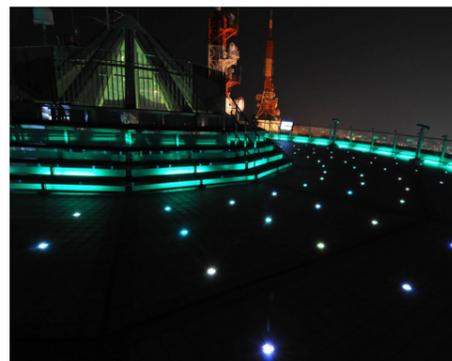
① 大浦天主堂



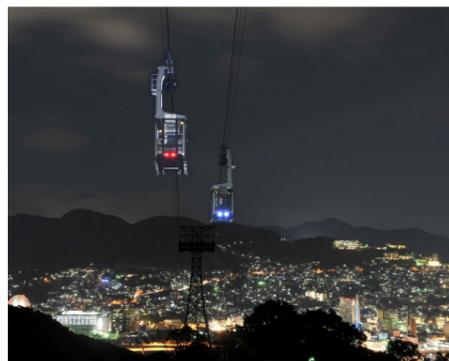
② オランダ坂通り



③ 稲佐山山頂展望台



④ 長崎ロープウェイ



⑤ 鍋冠山公園展望台



⑥ 稲佐山山頂電波塔



1. 本計画について

1-2. 課題

長崎夜景の魅力を維持・増進し、誘客を拡大して地域活力の活性化につなげるため、平成 25 年度から長崎県と長崎市で取り組むべき施策を検討する「長崎の夜景の在り方に関する検討会」が開催され、平成 26 年 12 月に報告書が取りまとめられました。

その中で、「夜景の質」「視点場」「観賞メニュー」「広報誘客」の 4 項目に関する課題と今後の取り組みが整理され、特に、「夜景の質」については、空き家・空き地の増加により全体的な光量が減りつつあること、ランドマークの存在が分かりづらいこと、港町らしさが活かしきれていないことなど、長崎夜景の根本に関わる重要な課題が指摘されており、夜景そのものの魅力向上や、観光施設や公共施設による夜間景観の向上などの対策が求められています。

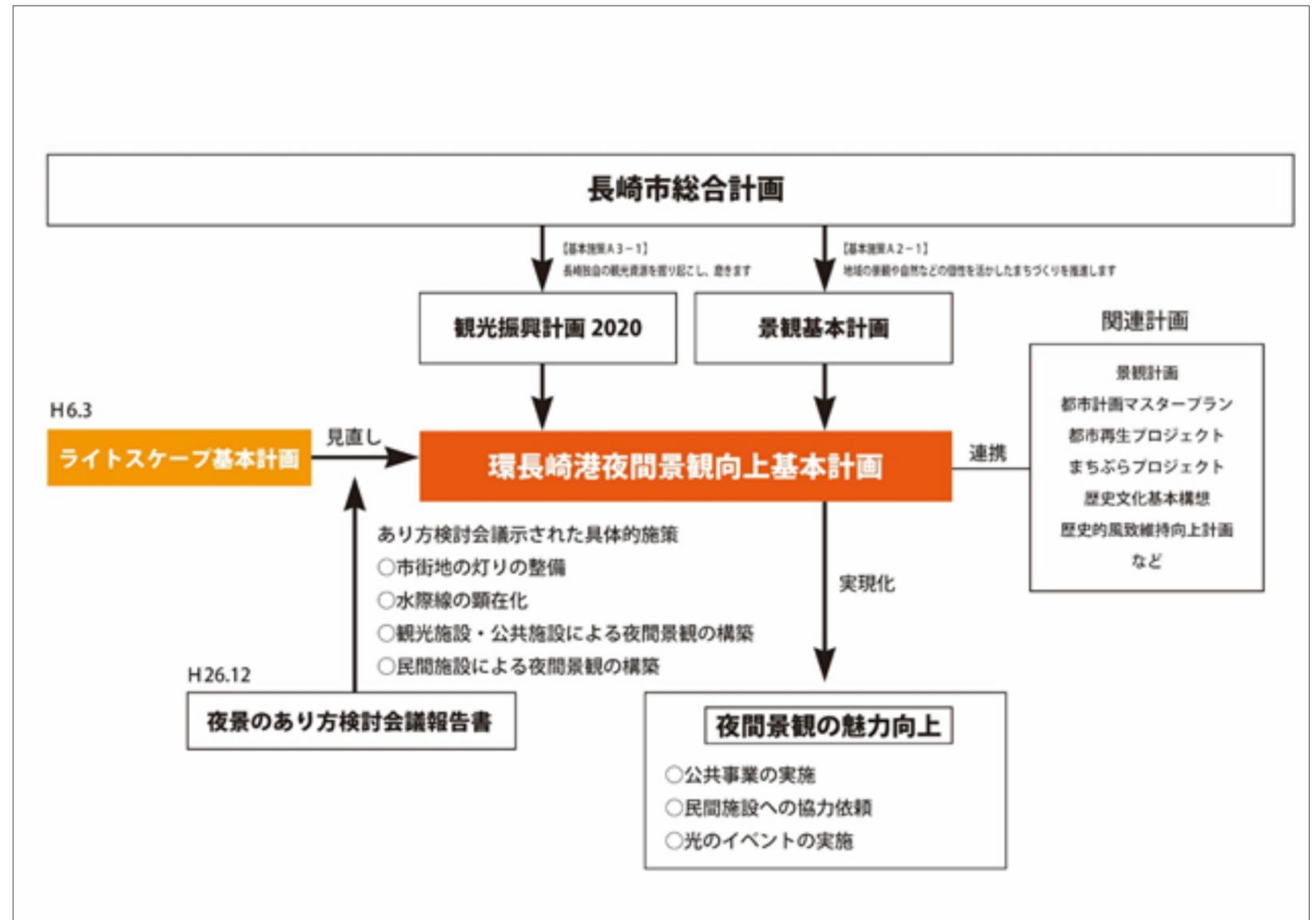
1-3. 本計画の目的

本計画は、長崎の歴史や文化を感じ、市民に愛されるふるさとの風景となる夜景づくりを通じて「世界一の夜景都市」となることを目指し、遠景及び中・近景の観点から必要な取り組みについて体系的にまとめ、戦略的に夜間景観の向上を図るための基本的な考え方を示すことを目的とします。

1-4. 本計画の位置づけ

平成 26 年 12 月にとりまとめられた「長崎の夜景の在り方検討会報告書」を受け、平成 5 年度に策定された「ライトスケープ基本計画」を見直すもので、長崎市第四次総合計画、長崎市景観基本計画、長崎市観光振興計画 2020 を上位計画とし、長崎市景観計画や長崎市都市計画マスタープラン、まちぶらプロジェクト等の関連する計画と整合を図ります。

図 本計画の位置づけ



(参考) 上位計画との対応状況

○第 4 次総合計画後期基本計画

A 3-1 長崎独自の観光資源を掘り起こし、磨きます

取組方針 1 長崎独自の歴史や文化等を有する観光資源の魅力向上
「斜面地や観光地周辺の重点地区の灯りの整備等に関する夜景観光まちづくりの基本計画を策定」

○長崎市観光振興計画 2020

・基本施策 1 長崎独自の歴史・文化等の資源磨き
個別施策 (2) 自然・景観や食文化を活かす

ア 夜景の魅力向上

・重点施策 2 夜景観光の強化

「年次計画でエリア毎に夜景を進化させる取り組みを行っていきます」

・重点エリア：中心市街地、浦上

○長崎市景観基本計画

第 4 章 II 地形の豊かさがつくる大景観 (2) 港と都市の眺望景観において、「照明による夜ならではの賑わいを演出するとともに、眺望場所の整備を行うことにより、港と都市の夜景が楽しめる景観づくりを行います。」

1. 本計画について

1-5. 本計画の対象区域

図 本計画の対象区域

本計画の対象区域は、主要な視点場である稲佐山並びに鍋冠山展望台からの視認される環長崎港一帯の市街地とし、特長あるエリアについては、中・近景における夜間景観向上を重点的に行うため、ライトスケープ基本計画や長崎市観光振興計画2020、長崎市景観計画における重点地区を基に、観光施設等が集中する10エリアを「夜間景観向上重点エリア」として設定します。



2. 長崎の夜間景観が目指すもの

2. 長崎の夜間景観が目指すもの

2-1. これからの都市照明とは

灯火が照明として扱われるようになった17世紀、各々の家のなかにとどまっていた炎が都市の街路に取り出され、都市照明の歴史が始まりました。ランタンや蝋燭による明かりからガス灯が登場し、19世紀末に初めて電灯が街路灯に使われましたが、都市照明のまず果たすべき役割は、「防犯と安全」でした。街を明るく照らすことにより、犯罪や事故をなくし、夜間においても交通の安全性を確保しようとしてきたのが都市照明の発展の歴史でした。

照明技術が発達し、基本的な安全性が確保されるようになった20世紀後半、都市照明には、ようやく「美しい景観をつくる」という機能が付加されました。照明には、夜に演出的な景観を提供することが期待されるようになり、建物のライトアップを行うという発想や、景観照明という概念が生まれました。

機能面だけでなく美しさを考える余裕のできた都市照明が、次に目指さなければならないことは、「万人に快適な光環境」となりました。機能主義・効率主義のただ明るいだけの照明は、そこに暮らす人々にとって、夜の安らぎを与えてくれるとは限らないし、外からの見た目だけ美しく照らされた場所が内側に入っても快適かどうかを考える必要もあります。快適な都市照明の品質とはいかなるものなのか、人々のための照明を、景観と並行して考えていく必要があります。

そして、21世紀の私たちにとって、「安全性」「美しさ」「快適性」という品質を満たしたあとに考えなければならないのが、「環境への配慮」という問題です。持続可能な都市をデザインしていくことが、現代の都市には求められています。必要以上の照明を省くこと、少ないエネルギーで効率的な照明とすること、時間帯によって適切な明るさとすること等、環境への配慮をいかに都市照明で実現していくかについてはまだまだ課題は多く残されています。

ここまで挙げた4つの要素は、世界中どこの都市でも実現されるべき理想です。ただ、さらなる都市照明の課題は、「都市の個性を表現する光」だと考えます。この5つ目の要求に応えるには、それぞれの都市ごとに、方向性を探らなければなりません。それを実現することは、その都市で暮らす人々や訪れる人々にとっても、それは大いに魅力的な都市の光となります。

2. 長崎の夜間景観が目指すもの

2-1. これからの都市照明とは

夜間景観向上戦略

5つの都市照明の要素に鑑みて、これからの長崎市の夜間景観形成における基本的に求められる要素について整理します。

「安全性」については、最も重要な要素として、これまで街路灯や防犯灯の整備を進めてきました。今後も、他の観点との関係に配慮しながら、引き続き安全性が高められるよう取り組みを進めていきます。

「美しさ」については、長崎市特有の地形の魅力に加え、ライトスケープ基本計画（平成6年3月策定）に基づくライトアップ整備、近年の視点場整備等により、「世界新三大夜景」に認定されるなど一定の成果が上がっています。しかし、手法としては建造物のライトアップを中心とした「点」的な整備にとどまっています。今後は、それらの更なる魅力向上に取り組むと共に、「線」のネットワークで繋いでいきます。

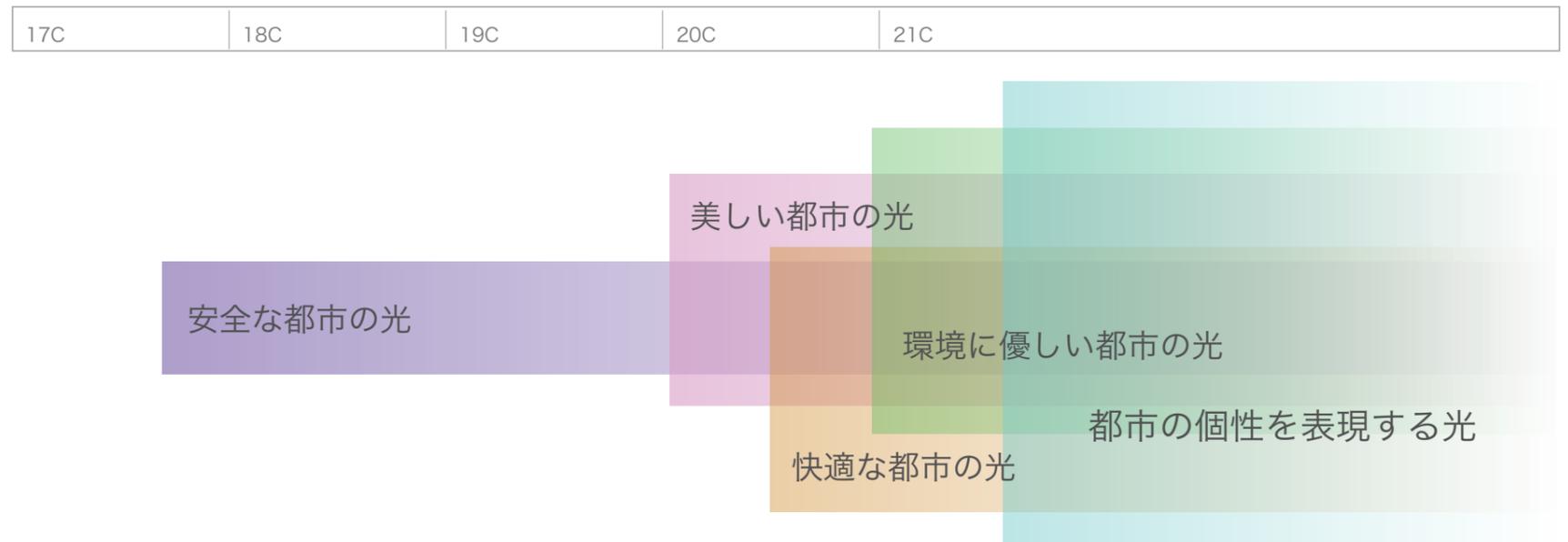
「快適性」についても、この線的・面的な美しさの考え方と同様に、俯瞰される夜景だけではなく、「長崎さるく」に代表される「歩いて楽しいまち」という特徴を活かして、実際に歩行するスケール感での心地よい夜景を目指していく必要があります。そのためには、快適な中・近景の夜間景観形成のための基本的な考え方を示し、実践することで、安全だけでなく、夜にも楽しく歩くことができるまちを目指します。

「環境への配慮」については、既存の白熱灯やナトリウム灯をLED照明への置き換えていくことを基本として、配光が無駄なく制御された器具を選定しながら、センサー制御の活用、市内全域での時間帯に応じたライトダウンやオペレーションの導入も視野に入れます。

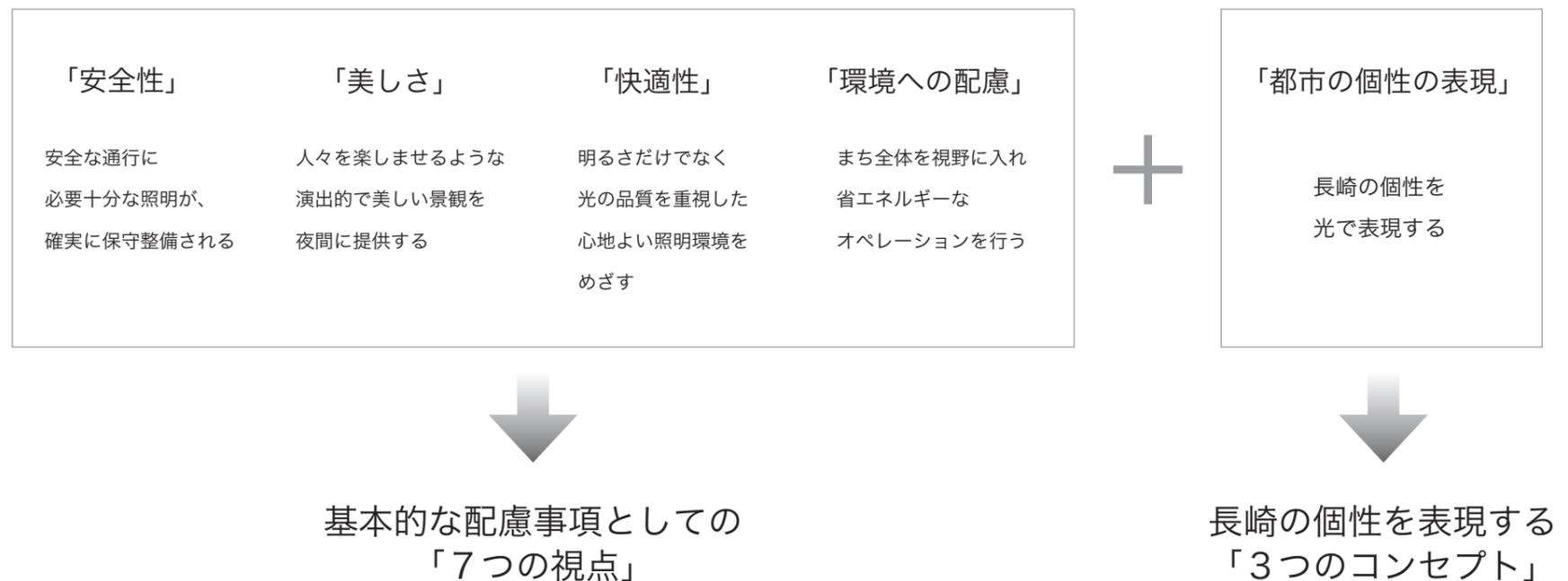
「都市の個性の表現」については、地形・文化・歴史といった各側面において豊かな個性を持つ長崎ならではの魅力を、光によって、より高めることができるような夜間景観づくりをめざします。

以上を満足するために、夜間景観向上における7つの視点と、都市の個性の表現のための3つのコンセプトを設定します。

<都市照明に要求される品質の変遷>



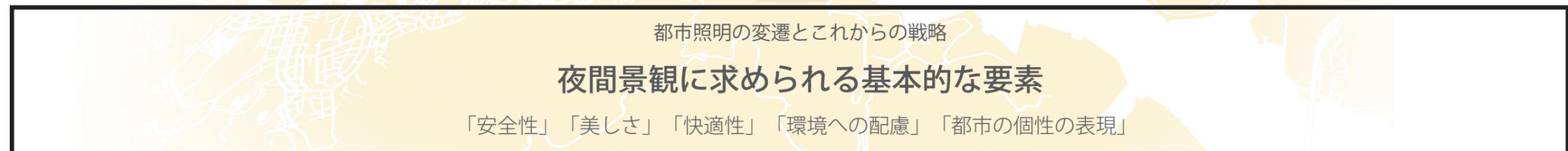
<品質を満たすための光環境>



目標

世界一の夜景都市

長崎の歴史や文化を感じられる夜景 市民に愛されるふるさとの夜景



2. 長崎の夜間景観が目指すもの
2-2. 3つのコンセプト

長崎市景観基本計画で整理されている本市の景観分類について、本計画の対象地区に関連するものについて整理し、3つのコンセプトとします。

- ・ 港を中心に発展してきた都市の景観
- ・ 斜面を利用した住宅地の景観
- ・ 急峻な地形と深く入り込んだ湾や港が生み出す多様な眺望景観

⋮

1. 港へ流れ込む輝き

斜面市街地が港を囲う地形を生かす



- ・ 人と物とが交錯するまちなかの景観
- ・ 四季を彩る祭りや行事の景観
- ・ 海外交流の歴史を感じさせる景観
- ・ 町並みの変遷を感じさせる景観
- ・ 近代化の歴史が偲ばれる産業遺構の景観

⋮

2. おおらかに彩られたまち

和華蘭文化や町々の個性を表現する

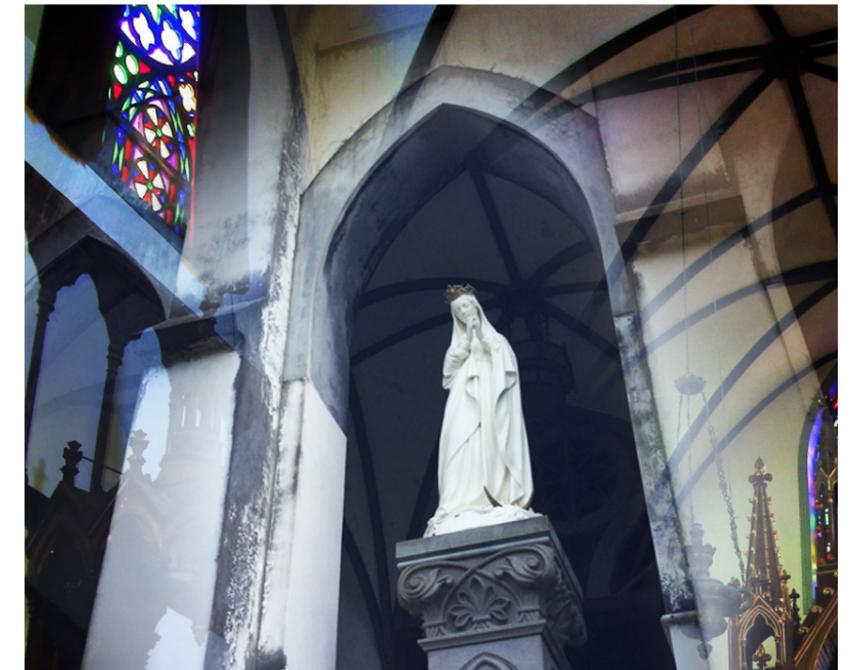


- ・ キリスト教の伝来とその影響
- ・ 国際平和都市を象徴する景観
- ・ 四季を彩る祭りや行事の景観
- ・ 町が作られてきた歴史に思いを馳せる景観

⋮

3. 祈りを誘う灯り

長崎の深い歴史を感じさせる





「港へ流れ込む輝き」

- …斜面市街地の地形を生かした光
- …水面に映り込むきらめき
- …港町と坂道的情緒

海に向かってすり鉢状になっている市街地は、坂を少し上るだけで、眼下に港へと繋がる街並みを臨むことができます。地理的な特色は、現代においては、遠景を俯瞰できる良好な視点場に恵まれていること、斜面地ゆえに視界が開けやすいこと、という景観の実質的な利点にあります。

長崎の夜間景観は、海を囲む地形を最大限に生かした美しさを表現する必要があります。それは、誰もが心に抱く、港町に息づく憧憬を感じさせてくれる輝きになるのです。

2. 長崎の夜間景観が目指すもの
2-2. 夜間景観向上のためのコンセプト

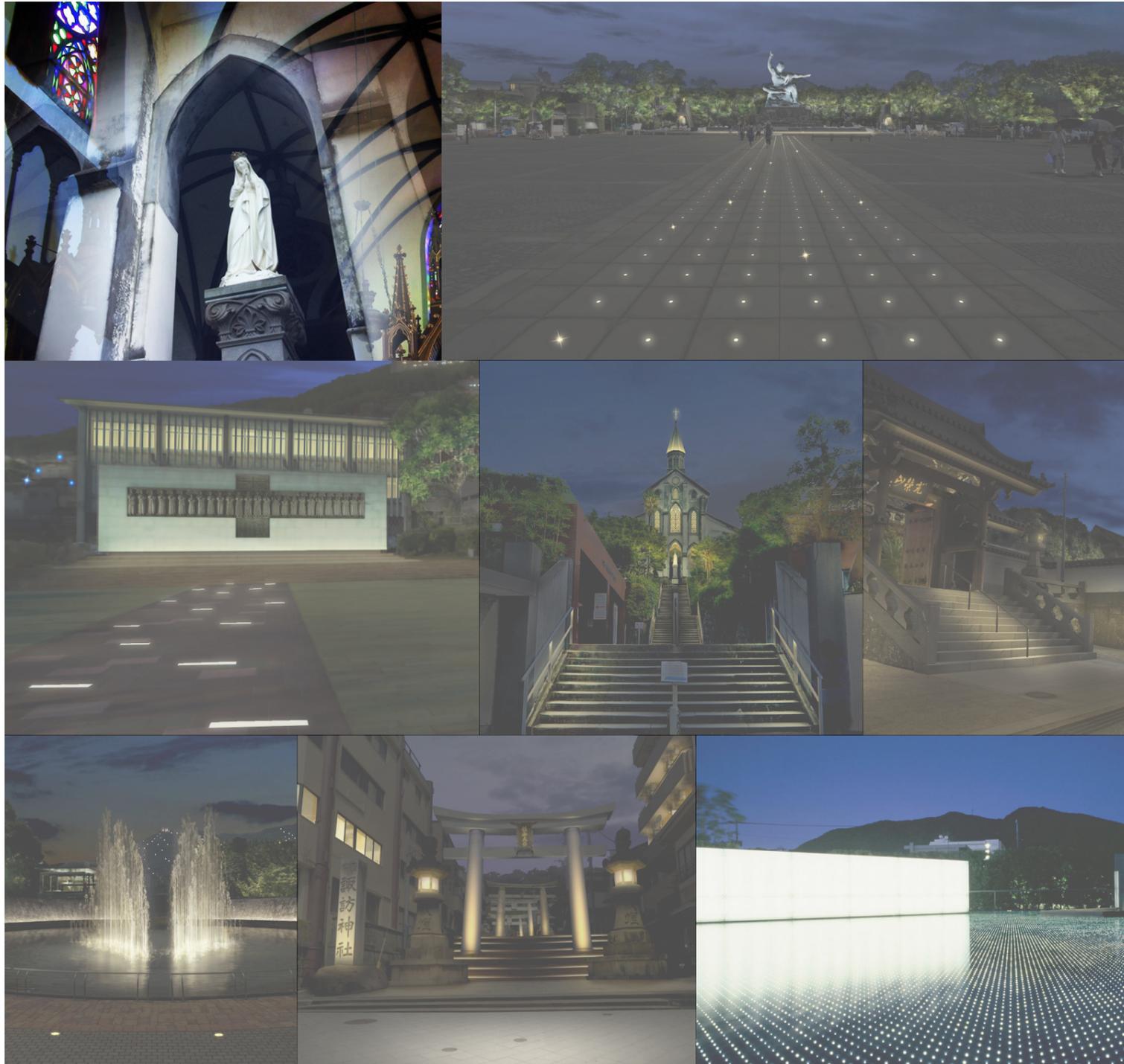


「おおらかに彩られたまち」

- …まちの個性を表現する光
- …和華蘭の文化を感じ取れる景色
- …観光と暮らしが両立した街並み

長崎の文化は、大陸や西洋から渡来した様々なものを真っ先に受け入れた懐の広さゆえ、和も華（中国文化）も蘭（西洋文化）もちゃんぽんになった唯一無二の「和華蘭（わからん）文化」と呼ばれています。

豊かな表情をひとまとめにするのではなく、それぞれの地区の個性を演出しながら、訪れた人が感じる魅力と、そこに住む人が抱く歴史と文化に対する誇りとが、自然に溶け合っていること。様々な彩りがおおらかに混じりあっている景色こそ、長崎にふさわしいのです。



「祈りを誘う灯り」

- …長崎の歴史を感じさせる光
- …心をゆさぶる美しさ
- …非日常に出会う体験

長崎のまちには「祈り」の歴史が堆積しています。極東を目指した異国の宣教者たちの思い、密かに守り続けられたキリシタン信仰、秋の大祭「長崎くんち」にかける町人達の熱意、日本を変えようとした英雄の志、そして原爆の記憶と平和への願い。長崎の歴史を辿ることで、過去から現在に繋がる様々な「祈り」の感情に出会うことができます。

長崎のまちの光には、ふとした瞬間にまちの歴史に思いを馳せ、祈りの感情を想起させるような灯りが必要です。